

Wisdom Management Methodology
「知識から知恵を創りだす方法」
(DTCN : Design To Customers' Needs の方法)

の概要

2013-5月

(Rev. 1)

監修 江崎通彦 博士 (学術)

(NPO 法人) DTCN・知識から知恵を創りだす方法協会

この知識から知恵を創りだす方法の概要と同じものは
<http://dtn-wisdom.jp/J/1-2.pdf> からダウンロードできます

商標についての注意書き

この「知識から知恵を創り出す方法」を知識として身にみにつけ、活用することにより、実現可能な範囲について知恵を創り出すことのできるようになります。

即ち、従来のナレッジマネジメントにこの方法の知識を加えることにより、ウィズダムマネジメントができるようになります。その時、手に入れることの知識とそれまでに持っていた知識を生かすことにより実現可能な範囲の知恵を創り出すことができます。

ウィズダムマネジメント (Wisdom Management) という言葉については、日本国内では、商標登録が行われており、その言葉を商標として使うことについては、次のような注意事項が必要になります。

- (1) 商標区分 16、印刷物、文具、及び 商標区分 35 広告、経営診断及び指導、市場調査などにつき、従来、株式会社産業工学研究所が権利を保有していたものを、いくつかの経過を踏まえ、そのコンテンツを持っている、DTCN インタナショナル・インコーポレイテッド INC. (有) の代表者江崎通彦が 2013 年 4 月 25 日に、買い取りました。
- (2) また、商標区分 41、スポーツ又は知識の教授、セミナーの企画・運営または開催については、DTCN インターナショナル・インコーポレーテッド(有) (代表書：江崎通彦) 058-231-9287：〒502-0053 岐阜市長良宮路町 1-2) esaki@dtcn-wisdom.jp が、従来から商標権を所有しています。

この商標は、学習塾などにおける知識の教授、セミナーの企画・運営または開催について、この商標を使うことができますので、学習塾における教授、小学校における教育、中学校における教育、高等学校における教育、大学における教授、国家資格取得講座における教授などについて独占的に、使えることになっています。そしてその商標権所有者以外が使うにあたっては、その商標の所有者と通常使用権の契約書を、(NPO 法人) DTCN・知識から知恵を創り出す方法協会を立会人として、結べばその商標を無償で使うことができますようになります。

従って、上記のウィズダムマネジメントの商標の利用については、社会を DTCN の方針に則り、よくするための目的でのお申し出があれば、ディーティシーエヌインターナショナルインコーポレーテッド(有) (代表書：江崎通彦) がその商標の通常使用権 (専用使用権ではない) のための契約書を結びます。

従って、これにより、大学、諸学校、学習塾において、ウィズダムマネジメントという名称の講座等を設けることが可能になります。

また、補足情報として、論文などのタイトルについては、ウィズダムマネジメント・Wisdom management のタイトルをつけても差し支えないとの、認識を特許事務所から得ています。

Wisdom Management Mrhodology

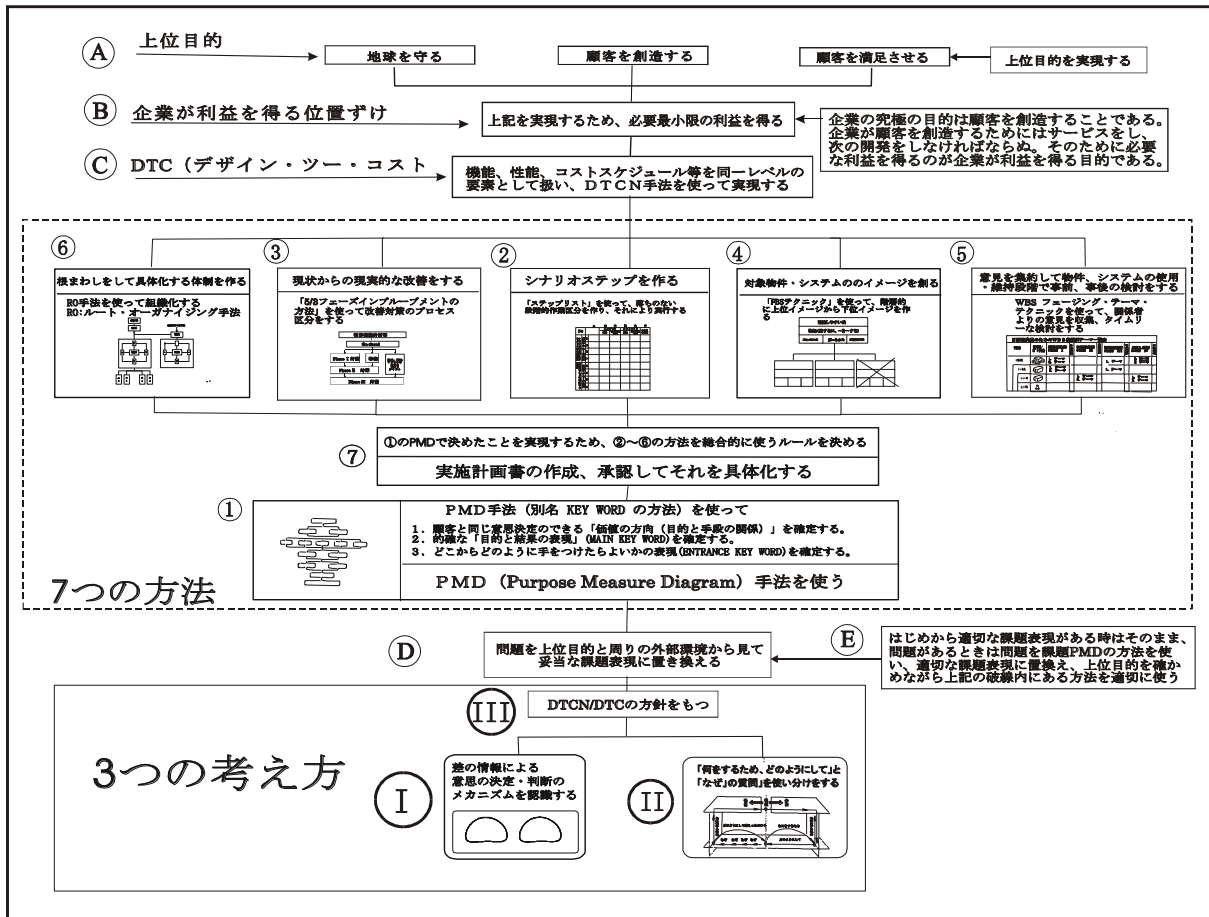
知識から知恵を創りだす方法 (DTCN/DTC の方法) とは

I. 従来からあった次の問題を解決する方法です。

1. 知識はあっても知恵のでない人が多かった
2. 問題と課題の関係が明解にされていなかった
3. 目的には上位目的と目標レベルの目的があるのにその区分が明解にされていなかった
4. 「意思決定のプロセス」という言葉と「意思決定」という言葉ががごっちゃにされていた
5. PM (プロジェクトマネジメント) と SE (システムズエンジニアリング) はよく似ているがその関係が的確・簡潔に説明されていなかった。
6. 意思決定の・判断のメカニズムについて、決め手になる説明がなかった
7. 知識から知恵を創りだす方法は、無意識に実行されているが、手順として整理されていなかった
8. ナレッジマネジメントの方法は、知識を使いやすくする方法としてできあがっていたが、それから知恵を創りだす方法 (=ウイズダムマネジメントの方法) は知識として確立されていなかった。

II. 知識から知恵を創りだす方法の構造を使って、どのようにして知恵を創りだすか

知識から知恵を創りだす方法の構造のイメージ図は下記の通りです



図を参考に、その要点を説明すると、次の1、2、3ようになります。

1. 次の3つの知識についての認識を持ちます

- ①. (比較による) 差の情報による意思決定・判断のメカニズムの認識
- ②. 「何をするため、どのようにして」と「なぜ」の質問の効果的な使い分け方

Ⅲ。知識から知恵を創り出す DTCN/DTC の方法の方針

(この方針の中には、知恵を創り出すことの上位目的が入ります)、

2. 知識から知恵を創り出す方法の7つの基本手法

この基本手法を使う目に、はじめから実現したい課題があるときはそのまま、解決したい問題があるときは、その問題の上位にある課題に置換えます。

7つの基本手法とは次の方法を指します。

- ① PMDの方法：課題を実現するための意思の方向とあるべき姿を表わす、要するに「…を…するのか」の表現把握（メインキー・ワードの把握）をする方法。
- ② ステップリストの方法：①で把握したメインキーワードを実現するためのシナリオステップ手順をつくる手順
- ③ FBSの方法：zあるべき姿の内容の構造・構成につき3つの実現可能な極端案の創出し、最適案構造（案）を選択する方法
- ④ WBSフェージング・テーマ・テクニック：検討をするべきテーマを事前抽出する方法
- ⑤ 3-5フェーズ・インプルーブメントの方法：ステップリスト補助手法
- ⑥ ROメソッド：課題を実現する関係組織の中で根回しと実施をする体制の取り方の方法
- ⑦ 実施計画書の方法：組織で実施する指示とそのフォローアップをする文書の方法

3. 1. に示す「3つの知識の認識」と2. に示す「知識から知恵を創り出す方法の7つの基本手法」を使うことにより、価値の高いものシステムの創出・実現を実現するための方法である図中の©「デザイン・ツー・コスト/デザイン・ツークカスタマーズ・ニーズの方法」を使うためには、®「企業が利益を得る位置づけ」を、最上位の目的、すなわち、Ⓐ「地球を守る、顧客を創造する、顧客を満足させる」ことの手段として位置づける必要があります。

以上が、概要です。

以上の方法により何ができるようになるかについての主な部分を項目化すると、次のページ以下に示すことができるようになりました。(2013-4月現在)

ウィズダムマネジメントの方法の基礎手法である「DTCNの方法で何ができるようになったか、なるのか」

1. 問題と課題の関係を明らかにできた
2. 問題解決のための“あるべき姿”の把握と、その“あるべき姿”の具体化ができる
3. SEとPMの関係が明確となった
4. もれ落ちのないインプット・アウトプットの関係とQA、QC、QM、QIとの関係がクリアになる
5. 営業のブラックボックスの解消ができた
6. WBSの方法とその書式を便利に使う方式についての解説
挿話 10 WBSを横書き文章連結型にするか、上下親子型に書くかにより、内容のバランス形成および項目の落ちの防止に与える影響
7. WBSフェージング・テーマ・テクニック、PMD、3・5インプルーブメントの方法の組合せで、先読み、戦略思考をする
8. 急に調達コストが下がったときの、担当管理者の失墜防止ができる
9. DTC（目標コスト設計）ができるようになる
10. MOT(management of technology)のDeath Valleyを乗り越えることができる
11. いままであいまいであった、用語の関係を明らかにする解説
12. 日本と外国の商習慣の違いの理解ができるようになる
13. ウィズダム・マネジメントができるようになる
14. 国家行政組織法、第1条を改訂もしくは読みかえにより国家行政を効果効率的にできるようになる
15. 戦略思考地図ができるようになる
16. 分析をするということの意味とそれによるアクションの幅を拡大できる
17. KJ法、QFD、VE、NM法、田口メソッド、IE、QCなどの方法を的確なフェーズで使えるように割り付け、効果的に使えるようにできる
18. 中小企業においても問題を課題に切り替え、あるべき姿を把握できる教育ができる
19. 現場での急速な改善、コストダウンができるようになる
20. 差の情報の創出すると説き起こしの場所、ディスカッションの場が作りやすくなる
21. 従来のプロジェクトマネジメントの方法とシステムエンジニアリングの教科書に不足していた方法が、相当な部分につき補完できるようになった。

以上の詳細については、2013年5月に出版予定の「[“問題解決・課題実現のための知識から知恵を創り出す方法”のまえがき](#)」とその本の第3章の原稿、即ち、<http://dtn-wisdom.jp/J/1-wm-nanigadekiruka.pdf>をご覧ください。(2013年4月現在)

詳細については、

- ① 入門編として、「課題を実現する革命的なもののシステムづくり革命的な方法—知識を知恵にかえる方法」(2008) 日本資材管理協会 <http://dten-wisdom.jp/00001-2008.pdf>
- ② 最新の入門編の次のレベル編として、「問題解決・課題実現のための知識から知恵を創りだす方法」(2013) 日本資材管理協会、DTCN 協会：2013年5月出版予定
<http://dten-wisdom.jp/J/1-wm-maegakiR1.pdf>
- ③ プロジェクトマネジメント、システムエンジニアリングの中に使われる WBS (Work Breakdown Structure) の方法につき、まだ WBS の作り方につき残っていた問題を解消する方法として「WBS の再定義と使い方」日本資材管理協会 <http://dten-wisdom.jp/00001-PMSE3.pdf>

以上のマザーブックとなった、書籍として、

- ④ [新プロジェクト管理の方法 \(1997\)](#)
- ⑤ その英語版 [Advanced Project management Methodology for Wisdom management era \(2002\)](#)
- ⑥ [Method for creating Wisdom from Knowledge](#)
もしくは <http://dten-wisdom.jp/00001-E-wisdom-managent.pdf>

は、上記とハイパーリンクしている URL もしくは直接の URL により、公開されています。